

「家がいいね」 第50号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2008. 7. 18

蒸し暑くなりました。熱い話題で失礼します。生きてゆくためには火は欠かせません。夏に料理をする方々は大変でしょうね。

でも火の扱いもスイッチを入れ切るガス・電気へと変わった現代です。「火を熾(おこ)す」とは何のことか伝えられない時代になっています。あの意味、火は命の象徴でもあったように思います。生木を枯らし薪にして、炭となり灰になり、その繋がりがあります。身近に暖を取る炭火は、灰の中で抱きとめられ、新たな炭に火を継ぎゆく習いでした。大岡越前の高齢の母が、答えにくい問いに口を開かず、火鉢の中をかき回していた「逸話」がありますが、単に「灰になるまで」という答えでないと私は思います。命の営みは、無用と思われる灰に支えられるものではないでしょうか。



火を埋む ニコロ埋むるごとくせり 橋本鶏二

点滴を求める心?

休日夜間の応急診療所にもほぼ二月に一度の頻度で、診療当番に行きます。前ほどではありませんが、「注射で早く治してくれ」「点滴をしてくれ」と言う人がいます。そういう人は「明日も仕事だから」と性急に効果を期待しているようです。

医療行為の効果は、時を待ってこそ明らかになるものもあり、それには「養生」という言葉が当たるでしょう。心身の回復には時間が必要です。使えるものを全て使えという考え方の中では、治療に点滴になってしまいそうです。全てをモノに換えることで、心と悩みを救えるでしょうか。

75歳以上の方へのお願い

後期高齢者の制度での問題ですが、7月31日まで、早くも保険証の切り替えになります。ほとんど内容は変わりませんが、期限などの確認のため提示をお願いします。在宅医療の方々も8月早々保険証確認によるしくご協力ください。

「終わりよければ」いせの会のお知らせ

毎月第3金曜に「いせ7」マ学習室で懇談会

6月19日 吉田利康さんのトークでは、毎日マスコミで流される「特別の死」ではなく身近の「普段の死」が聴きたいと思いい、奥様を自宅で見送ったお話をしてもらいました。身近の死には、身近なりの覚悟が必要ですがそれは大上段に振りかぶった覚悟ではなく、一つ一つの小さな覚悟の積み重ねだと実感しました。



食べられなくなった時が生活のピンチ

- 9月28日(日) 13時~17時 シンポジウム「食べられなくなった時、あなたならどうしますか」 いせトピア 多目的ホール
- * 食べられないってどんなこと
↓耳鼻咽喉科 医師の説明
- * 口から食べる工夫はどこまで出来ますか
↓栄養士からの説明
- * 病院に入院した場合には(胃瘻も含めて)
↓消化器科 医師の説明

看護師の在宅医療の研修について

8月18日~23日、三重県立看護大学の大学院生(看護師)が、訪問に同行します。御協力をよろしくお願ひ申し上げます。

夏季の臨時休業です

- 8月12日(火) 通常どおり開院
- 8月13日(水) 臨時 休院
- 8月14日(木) 定期 休院
- 8月15日(金) 臨時 休院
- 8月16日(土) 通常どおり開院



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<http://www.tcp-ip.or.jp/~takuro>